

ハノイ研究室旅行が生んだ記録写真とスケッチ集

旅は遭遇であり発見である。研究室旅行も同じで、2004 年ハノイ旅行ではふたりの作品集が誕生した。世界遺産古都フエなどの水害地をみごとにカメラにおさめた黒瀬 M1、世界遺産ハロン湾の島々をすばやくスケッチにおさめた内山 M1 である。黒瀬 M1 は、酒井著『西村幸夫「都市保全計画」 & 熟年職生日記』に収録された。

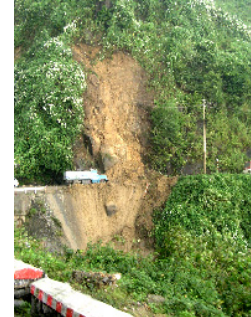
古都フエ水害、黒瀬 “カメラマン” 撮影行 昨年 11 月、ベトナムの古都フエなどの水害地を都市デザイン研究室旅行の集結地ハノイに向かう途中、小林有吾 M2（今春から社会人）とサイゴンから北上してこの水害に遭遇した黒瀬 M1 が撮影した秀作。数十枚のうちから 3 点をノートリングで公開する。



洪水で浸水した橋（ホイアン）



浸水した世界遺産の王宮（フエ）

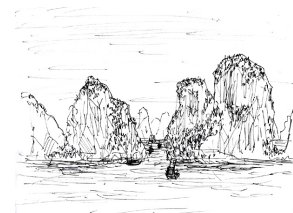
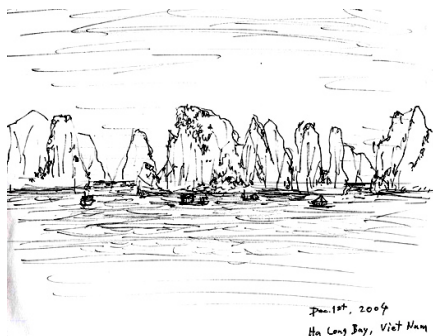


土砂崩れのあったハイヴァン峠

黒瀬 M2 の話 洪水も商売にしてしまうベトナムの人々の逞しさが印象に残っている。一方で、治水をはじめ、社会基盤の不足を実感。日本の経験をどのように生かすことができるのか考えさせられた。

内山 “画伯” も誕生 ハノイ旅行のフィナーレである 12 月 1 日の世界遺産ハロン湾クルージングの際、まぶしい陽光の下、桂林に似た奇岩の島々の眺望を甲板で楽しんでいた内山 M1 が突然手帖を取り出し、さらさらとスケッチ 4 枚のアート作品を描いた。

内山 M2 の話 水面から山々がそそり立つ奇観に、水墨画の世界に迷い込んだような感覚を覚えた。



大野村プロジェクトで誕生した竹山奈未 M1 の詩「卒業設計～ただいま/おかえり」
Problem- 集落が消える ただいまをいう時、ひとは安心している それは、おかえりを言ってくれる人がいるから。
帰省。Uターン。 過去と向き合い、自分と向き合い、再び出発する。そんな当たり前のことを失おうとしている人たちがいる。
Site- それは岩手県大野村水沢のひとたち 三つ沢が合流するみつつさわ、みつつさわ・・・みずさわ。
地元の人はみっちゃあと呼んでいる。 沢の音の絶えない、水も空気も澄みきったところ。

ここに 10 個以上あった沢沿いの集落が 高度経済成長期以降、どんどん消えている。2005 年、残るは4 集落。



大野村 役場のHP

Program-人も記憶も受け継ぐ 中心の集落には小さなにぎわいを。周辺集落の生活を支え、帰ってくる場所があり続けるように。 それでも集落が閉じてしまったら、「土地参り」に通いたい。

Design-「家のお墓」 集落の記憶を受け継ぐ場所、「家のお墓」を創る。 敷地は、水沢の真ん中、旧小学校の向かいにある。

朝一番に日が当たり、一日中光を受ける水沢の一等地。 この山すそに、穴を掘った。それが、ここに必要な最低限の設計。稲穂を駆ける風に導かれて不思議な空間にやって来た。ここはまるで山のフトコロのようにあたたかい大地が家のようにすべての人を受け入れる

木が自然に帰る場所は、 移転した集落の人が帰る場所であり、 私たちも帰る場所なのであった。

再び出発するために 「ただいま」「おかえり」



北沢都市デザイン概論開講 質問式双方向性丁寧授業

北沢猛助教・横浜市参与の学部講義「都市デザイン概論」が4月19日から始まった。受講生は80人、文学部からも出席。都市の構成についての理解を深め、空間を計画しデザインする理念や方法の基本を知ることが講義の目的である。フロアに降りて次々質問する双方向性丁寧授業と横浜事例集が特色だ。

M1 自己紹介バラエティ

T 三鷹市で育つ。現在は横浜市に実家あり、去年の末から白山の辺りに一人暮らし開始。普段は自転車ですらぶらしています。旅も好きです。卒業旅行にヨーロッパ 1-6 人旅して来ました。好きな音楽→ボサノバ系、ヒップホップ、ハウス、ヒーリング系。ダンスサークルを引退し、運動不足気味なので、今年はフットサルにも挑戦します。

H 学部時代は土木工学科で学び、4 年次は都市システム研究室に所属し、卒業研究を行いました。大学院で勉強するからこよ、この分野だったら誰にも負けられないという分野を見つけ、そして極めることによって、自分に自信をつけて卒業できたらと思います。

M 興味 東京の繁華街や住宅地および東京全体の都市史。都市社会論、記号学的なもの、たとえば、ヒーロー戦隊で使われるロケ地（臨海副都心、ニュータウンなど）はどのようなメッセージをこめて選定されているだろうか？ 環境心理学、環境行動学的なもの、パーソナルスペース、対人距離、コミュニケーションと空間などなど。建築、造形、語学力UP。

S 大学3年の夏休みのオープンデスクで勉強させていただいた事務所が神楽坂にありました。そこで行った路地調査を2003年10月に地元団体のシンポジウムで発表させていただきました。そして、西村・北沢研の先輩方と出会い、以来、勝手に西村・北沢研に運命を感じ続ける。

永井（旧姓藤本）ふみさんの
ハッピースナップ



前号で結婚パーティを報じましたが、肝心の花嫁さんの写真がはくわかな〜いとの声がありましたので、秘蔵写真を公開します。
花束は当日参加のM1 たちから贈られました。

編集後記 活力ある都市デザイン研究室は、このマガジン創刊と同時に、M1 が受け持ついくつかの係りに新聞係りを新設するとともに、ホームページに「ご感想などありましたら、editors@ud.t.u-tokyo.ac.jpまでお気軽にどうぞ」を載せました。さらに中島助手からは「OBOGの皆様のご活躍をお伝えする、ないしは旧交を温める、というものもマガジンのひとつの目的です」というメッセージが発信されました。研究室の「今」を広く発信するこの誌面が、現役・先輩の協力で新鮮に展開していくことが切望される「今」です。（酒井）